

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272900430		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム はつとみ		
所在地	千葉県鎌ケ谷市初富204-4		
自己評価作成日	平成 26 年 3 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成 26 年 6 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成 26 年 3 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>雰囲気のある施設づくりを心がけております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づいて医療を重視し専門性を持った安心感のあるグループホーム創りを目指している。また、利用者の気持ちを尊重し、思いを達成して頂く事を方針としている。管理者は職員が利用者の思いを感じ取り、利用者の尊厳を守る意識を常に持って支援するよう指導している。職員は利用者が入所前に出来ていた事を継続して出来るよう、残された力を活かす支援を心掛けている。教育・業務改善委員会等の5つの委員会を立ち上げ、目標を明確にした業務改善の取り組みに挑戦している。全職員が委員会活動を通じて、課題を見出す力と改善能力を向上させ人材の育成につなげている。また、利用者が安心した生活が送れるよう、提携医療機関や訪問看護ステーションとの連携を図り、緊急時も24時間対応できる体制を構築している。職員が利用者の尊厳と安全を守り、自発的に業務改善に取り組むように、目標を明確にした取り組み姿勢を評価したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎朝朝礼で唱和し、意識付けを行うと共に実践していける環境づくりを行っている。	理念を朝礼で唱和して、生命と尊厳について、全員の意識を共有化を図っている。毎日の健康チェックとわずかな変化に気づき、医療の連携を活かして安心した生活を支えている。利用者の気持ちを尊重し、本人本位の介助を心掛けて理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事やボランティアの参加などで交流を図っている。	市内にできた最初のグループホームとして、また大手病院の系列として地域に周知されている。町内会の桜祭りや夏祭りの行事に参加し、日々の散歩での農家の人との会話やボランティア団体との交流で繋がりが保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告会を行い、地域の皆様からのご意見を取り入れながらサービスに活かしている。	運営推進会議は、市の担当者、自治会長、民生委員等が参加して年3回開催され、入居者状況、消防訓練、行事内容等が報告されている。事業所機関紙を町内会の回覧板で廻すなど、会議で出された提言が運営に反映されている。	運営推進会議に家族の参加を促し、テーマを事前に提示するなど、活発に意見交換される為の仕組み作りが期待される。また、年6回の開催に向けた取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の報告や空室案内などを通して情報をお送りしている。	市の高齢者支援課の担当者とは、運営推進会議や書類の提出時に話し合い関係維持に努めている。法令遵守、消防訓練や感染症等について意見を伺い、連携した取り組みがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通じて理解を深めている。玄関の施錠は建物としての設備の為、すぐに改善はできないが、今後修繕などの機会に改善したい。	身体拘束は、基本的にしないケアが行われている。職員は、いつも敬う心を持って言葉遣いには気を付け、気持ちを込めた支援を心掛けている。マニュアルを基に全体会議の場で研修が行われ、拘束ゼロをめざし、なぜいけないのか3つの弊害を理解する取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて日常の中での何気ない事柄でも場合によっては虐待とみなされることを理解し、発生の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて理解を深める事としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明、質疑応答を行い、署名捺印を持ってご納得の証としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設置している。	運営推進会議や家族の訪問時に、意見や要望を聞いて運営に反映している。また、意見箱を設置して意見を聞く仕組みが出来ている。法人による満足度調査が行われ、改善事項を職員と話し合い支援に活かしている。明るい雰囲気が強みとの家族からの意見があり、何時も元氣な挨拶を心掛け実践されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議などを通じて行っている。	毎月開催される全体会議は、職員全員が集まって何が出来るかを話し合っている。委員会活動は、5つの委員会に各々が参加し、期初に目標を作成し、毎月進捗状況を説明し、課題を協議している。資料の作成や会議での発表が、責任感と意欲の向上に繋がっている。	委員会活動は、期初の目標沿った対策を協議しており、マニュアル作成は重要な施策となっている。マニュアルを活用した研修の実施とサービスに活かす取り組みが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のコミュニケーションを通じ行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば参加を促し、また参加出来る様にシフトの調整などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人ではあるが近隣に施設がある為、情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントを通じ、ご本人の状態を把握すると共に、ご家族様とも時間をかけ話し合い、密な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントを通じ、ご本人の状態を把握すると共に、ご家族様とも時間をかけ話し合い、密な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントを通じ、ご本人の状態を把握すると共に、ご家族様とも時間をかけ話し合い、密な関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで出来ていたことを継続出来る様に、アセスメント時に情報を頂き、家事や趣味活動を通じて役割を持つことを促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態を報告し、必要時の受診やイベントへの参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会を随時行えるようにしている。	近所に暮らす家族や知人友人が多く来訪し、管理職が対応し、お茶を飲みながら話を聞き関係維持に努めている。遠方で来苑できない家族には、手紙で状況を報告して繋がりを保つ取り組みがなされている。家族の協力を得て、馴染みの場所や外出・外泊が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが図れる方については関わり合いが持てる様に支援を行っている。難しい方に関してはスタッフが状況を見ながら声掛けを行い、座りきり、寝たきりにならない様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡などあれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションを通し把握に努めている。	入所時にアセスメントを行い、家族から生活歴やこれからの生活の要望を聞いている。日々のケアの中で、声掛けをして思いや希望を聞いている。困難な人は、しぐさや表情から汲み取り、家族との話の中から意向を聞き把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日のコミュニケーションを通し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のコミュニケーションを通し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心として行っている。	利用者・家族からのアセスメントを基に、日々の気づきやニーズを介護記録で把握している。カンファレンスを開催し、担当者、ケアマネージャー、管理職、がチームとしてケアプランを作成し、家族の同意を得て実施されている。6か月毎にモニタリングとカンファレンスを行い、変化のある時は、随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出かけたときや買い物があるときなどはご本人や仲の良い方たちと短時間でも外出などをして希望をかなえられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を利用して頂いている方は定期的な往診を受け適切に医療を受けられている。	入所時かかりつけ医について希望を聞き、家族の支援を基本とし、受診毎に連絡を受けて記録し情報は共有されている。訪問看護師が健康管理を行い、訪問診療は月2回行われ、主治医と連携して対応がなされている。変化がある時は家族に連絡し、訪問看護ステーションと連携を取り主治医の指示を受けて対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護ステーションに毎日入居者の状況を知らせ状態の把握をしていただけるように努め、週に1回の訪問時の時間を有効に使っていただけるように配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、	連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を入居契約時に説明し、ご理解を得る様にしている。	入所時に重度化や看取りに関する方針を、説明し同意を得ている。看取りについては、利用者や家族の意向を尊重し、1ヵ月以上の入院を必要とする時は、主治医の判断により対応を決めている。重度化が進んできた時は、家族、看護師、主治医と連携を密にして対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い日中、夜間を問わず対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通じて行っている。	防災訓練は年2回、避難訓練と通報訓練が行われている。消防署の指導があり、夜間を想定した訓練では、初期消火、消防署への通報、2名の職員による誘導、毛布を使っての移動等実践に沿った方法で行われている。通報訓練は、職員の連絡網を活用した伝達訓練が実施されている。	安全管理・防災委員会によるマニュアルの作成が行われている。マニュアルによる研修の実施とそれに基づく訓練の実施が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。	高齢者の尊厳を守る事を理念として掲げ、人生の先輩として敬い接する支援がなされている。声掛けには注意をして、利用者の思いを感じ取る細かな配慮がなされている。接遇やプライバシー保護の取り組み等の研修を実施し、新入職員には、ケアの手順書により理念と利用者への接し方を指導して質の向上に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のニーズを把握し、ケアプランを基に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のリズムを把握してマイペースに過ごして頂ける雰囲気を作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師などを利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分けや下ごしらえ、調理や片づけなど出来る能力をお持ちの方には積極的には行って頂けるようにしている。	業者の食材により、利用者は下ごしらえから調理、味見まで料理を作る段階から楽しみを持って行われている。利用者の状態や嗜好を考え、食べやすい工夫と食材にひと手間かけた心配りがなされている。誕生会のケーキ、雛祭りのちらし寿司、おやつのカッキーづくりや外食は笑顔が見られ、大きな楽しみの行事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量を記録し把握することで、食欲不振や脱水状態になっていないかを確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けし、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けし、行っている。	一人ひとりのバイタルチェック表で、排泄のパターンを把握して自立排泄を支援している。利用者のほとんどがトイレでの排泄が出来ており、一日のリズムに合わせて声掛けをして対応がなされている。便秘の人は薬を使用し、牛乳や乳製品を用意して心配りがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認を行い、便秘時には内服などで排便のコントロールを保つよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けにて本人の希望を確認し、入っている。	利用者の希望を取り入れて個室による入浴が行われている。入浴時は、出来ることはなるべく自分でやり自立への支援が行われている。入浴前には皮膚の点検をし、入浴剤を使って香りを楽しむ、乾燥肌にはローションを塗って体調に配慮した支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室で過ごしていただく時間を無理に妨げないように声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないが、買い物や図書館などへ外出支援を行うことで行っている。	利用者は、職員と一緒に毎日の散歩や庭での草むしりをして、なるべく外に出る工夫がなされている。買い物は近くのスーパーで、おやつを買う事が大きな楽しみとなっている。祭りや外食はデイスターの車を借りて出かけ、家族の協力で外出、外泊も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方にはして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、ご利用者の皆さんにカーテンを開けて頂いたり、換気、掃除等への参加をお願いしており、自発的に行うことで、自分たちに心地のいい環境を作っていただいている。	広くて明るい共有空間に、様々な行事の写真にコメントを付けて掲示し、家族に利用者の笑顔を観てもらっている。テーブルや席次を工夫して、仲の良い人との話が弾み、居心地の良い環境づくりがなされている。毎朝、カーテンと窓を開け、電気を灯し、掃除をして心地良い環境を利用者自らが作る取り組みが行なわれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやロビーなどを利用し、一人になれる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やベッド、をお持ち込みいただくことで行っている。	入居者のしおりで必要な品物を説明し、私の部屋として環境を整えて、過ごしやすい部屋作りとなっている。使い慣れた家具やベッドを持ち込み、入居したことで不穏な気持ちになる事がない様に配慮がなされている。利用者が、掃除、カーテンの開閉や照明の調節も行って、自らの役割を持った生活が過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛け、支援により行っている。		